

地域医療への貢献－地域から必要とされる医療を提供するために－

織田 政継[†]第74回国立病院総合医学会
(2020年10月17日 於 新潟)

IRYO Vol. 76 No. 1 (28-30) 2022

要旨

国立病院機構宮崎病院（当院）は、宮崎県中東部、宮崎市より北東に約35 kmに位置している。病床数は、一般急性期60床、重心120床の計180床である。当院の属する、西都児湯医療圏は、人口約10万人で65歳以上の高齢者が約3割を占めている。

一般病床の主力診療科である整形外科は、当医療圏で四肢手術（人工関節置換術（股・膝））を行っている唯一の医療機関であり、この機能を、維持・充実させることが重要と考える。また、内科においては、当医療圏内に少ない、循環器内科、糖尿病代謝内科の専門医がおり、ペースメーカー植込術や生活習慣病の治療・予防等により地域医療に貢献できると考える。さらに、重心医療に関しては、COVID-19感染拡大を受け、県の要請により医療的ケア児等の主介護者が感染した場合のシェルター設置を行うこととした。

当医療圏は、患者流出率が非常に高いうえに、人口減少により患者が減少していくことから、医療圏内においてさらなる患者確保が必要となってくる。このため、医療圏内の医療機関、および老人介護施設等との連携を強化しているところである。

当院のかかえる問題として、医師不足と建物の老朽化がある。医師については、辛うじて標欠を免れている状況であり、建物については、経年劣化により、雨漏り等がひどく、療養環境としては決してよいとはいえない状況である。現在の診療内容をさらに充実させること、よりよい療養環境を提供することが、地域医療へ貢献することになると考える。そのためにも、医師確保と建て替え整備は喫緊の課題であると考えている。

キーワード 地域医療, 医師不足, 建て替え整備

国立病院機構宮崎病院（当院）の概要

当院は、宮崎県中東部、宮崎市から北東約35 kmに位置している。宮崎市内からは、車で約1時間。公共交通機関は、JR、バス等があるが、本数が少なく交通の便はよいとはいえない。当院が所在する川南町は、日本の三大開拓地の一つであり、人口約

1万5千人、東は日向灘、西は九州山脈に連なる尾鈴山に面しており、大変自然豊かな土地である。敷地面積は、167,622 m²、東京ドーム約3.6個分とかなり広大な敷地である。建物面積は14,384 m²、延べ床面積は、22,844 m²である。

当院は、もともと結核療養所であり、宮崎県の結核医療の拠点として運営されていた。昭和32年に

国立病院機構宮崎病院 事務部 [†]事務

著者連絡先：織田政継 国立病院機構宮崎病院 事務部長 〒889-1301 宮崎県児湯郡川南町大字川南19403-4

e-mail : oda.masatsugu.yq@mail.hosp.go.jp

(2021年3月5日受付, 2021年6月16日受理)

Contribution to Community Medicine : To Provide the Medical Care Needed by the Community

Masatsugu Oda, NHO Miyazaki Hospital

(Received Mar. 5, 2021, Accepted Jun. 16, 2021)

Key Words : community medicine, shortage of doctors, rebuilding maintenance